

東京都小学校国語教育研究会研究主題

## 他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる—

読むこと部 研究主題

自立した学習者を育てる読むことの指導

# 第4学年国語科学習指導案

## 単元名 「場面のうつりかわりと結びつけ、登場人物の気持ちの変化を読もう」 ～解き明かそう！ごんの最後の思いとは～

学習材名「ごんぎつね」（光村図書 4年）

日 時：令和6年2月16日(金)5校時

児 童：江東区立第二辰巳小学校 第4学年4組 35名

担 任：江東区立第二辰巳小学校 教諭 柴垣 葵

指導者：新宿区立余丁町小学校 主任教諭 小松 沙織

### 1 単元の目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

### 2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	① 文章から気付いた言葉により、様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。((1)オ)	① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)  ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	① 進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、ごんの最後の思いを文章にまとめようとしている。

### 3 単元構想

#### (1) 児童について（児童観）

児童はこれまで「白いぼうし」や「一つの花」などの文学的文章を読む学習を通して、場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読んだり、登場人物の性格を捉えたりする学習を行ってきた。本単元では、場面と場面のつながりを捉えたり、それを登場人物の気持ちの変化と結び付けて読んだりする力を身に付けさせたい。また、自分の考えを友達に話したり、友達の考えを聞いたりすることを通して多様な考えに触れ、自らの考えを深める学習活動を毎時間取り入れていく。物語について自分では気づかなかったことに気付いたり、自分にはなかった価値観に触れたりして作品の世界をより深く味わうことにつなげ、単元末に自身の変容を実感できるように、単元を展開していく。

#### (2) 学習材について（学習材観）

「ごんぎつね」は優れた情景描写や登場人物の気持ちの変化などが的確に表現されており、児童文学の名作として長年教科書に掲載されている作品である。4年生という発達段階にもふさわしく、叙述をもとにして、登場人物の性格や気持ちの変化、情景など、想像したことを他者と交流することによって、互いの感じ方の違いに気付かせる学習を行うのに適した学習材である。登場人物の変化を捉えさせるためには、作品の冒頭で登場人物がどのように紹介されているか、場面設定を正確に読む必要がある。その上で場面の展開に応じて表現されている情景描写や登場人物の気持ちの変化の叙述に着目しながら読みを進めることが大切である。

#### (3) 単元について（単元観）

本単元では、児童が意欲的に読み進め、主体的な学びとなるよう、初読後の感想を生かした単元づくりを行う。構造と内容の把握では、登場人物の行動や情景描写などを丁寧に扱う。「精査・解釈」の学習過程では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を具体的に想像することを主軸とする。特に、発問を工夫することで、ごんと兵十の気持ちのすれ違いや、関係性について、文章全体の複数の叙述を根拠に気付かせることができる。文章のクライマックスでは、多くの児童が心を動かされ、作品の捉え方に違いが生まれる。そこに「考えの形成」の学習過程を意図的、計画的に設定する。さらに「共有」の学習過程では、一つの文章から、読み方によって、多様な見方や考え方ができることに児童が気付くことができるようにしたい。

### 4 読むこと部でとらえる「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

読むこと部では「言葉による見方・考え方を働かせること」を次のように捉えた。

#### 【説明的な文章について】

言葉による見方とは、社会的事象、自然科学的事象について書かれた文章を、「社会的な見方・考え方」や「理学的な見方・考え方」で内容を理解することに加え、その文章で、どのように対象（事象）を言語化し、言葉と言葉が関係付けられているか、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような感想や意見などを持っているのか、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかに着目することであると考えた。言葉による考え方とは、課題解決に向けて叙述を基に比較したり、順序や理由を考えたり、要約したり、評価したりすることと考えた。そして、論理的に説明する言葉への自覚を高めることが「言葉による見方・考え方を働かせること」であると捉えた。

#### 【文学的文章について】

言葉による見方とは、物語としてのエピソード（出来事）の展開としてのストーリーを理解するだけでなく、人物の会話や地の文における人物の行動や心情の描写や説明がどのように叙述されているか、人物と人物との関係、場面の情景、場面と場面との関係がどのようになっているか、人物像や作品の全体像がどのように形象化されているかに着目することであると考えた。言葉による考え方とは、虚構の形で表現された登場人物の心情や表現の効果などについて、叙述を基に比較したり、類推したり、因果を捉えたり、分類したりすることと考えた。そして、文学的な言葉への自覚を高めることが「言葉による見方・考え方を働かせること」であると捉えた。

### 5 研究主題に迫るために

#### (1) 児童が（本単元において）身に付けたい力を自覚し、主体的に学習に取り組む。

「読むこと部」では、「身に付けたい力」とは、「読みの観点(気を付けて読むこと)」ととらえている(例: 場面の移り変わり、表現の工夫、人物の相互関係 等)。以下2つの手だてによって、児童が単元を通して「読みの観点」を意識して学習できるようにすることで、「言葉による見方・考え方」を働かせる力を高める。

##### ①「読みの観点」の共有

##### ○初発の感想から中心発問を設定する

本教材は、結末が非常に印象的かつ衝撃的な物語作品である。奇を衒った仕掛けがなくとも、指導者の前置き無しで学習材と出会わせるだけで児童は十分に心を動かされるはずである。そこで

まずは個々に読ませ、初発の感想や疑問をもつことから単元をスタートさせたい。最後に「ぐったりとしてうなずくごん」の気持ちに焦点を当て、初発の時点での意見を交流した後、単元の中心発問（ゴール）として設定することで、どうすればごんの最後の思いにたどり着けるか考えることにつなげていく。

○既習をふり返って「読み方」の確認する

これまでの物語文の学習で、児童は「場面の様子」や「出来事」と登場人物の「様子」「行動」「会話」などを結び付けて読むことが登場人物の「気持ち」を想像する手がかりになることを学んでいる。さらに、登場人物の「境遇」や「性格」について、場面の移り変わりに応じて叙述と結び付けて具体的に想像することを学習してきた。単元冒頭で、その学習を想起させ、全体で確認・共有することによって一人読みの際に叙述に自ら着目したり、共通した視点で交流したりができるようになると思った。

②学習課題の工夫

○中心発問に向かう毎時間の課題設定

前述のように、単元のゴールとして「ごんは最後どのような思いだったのか」という中心発問を児童との話し合いの中で設定する。その課題を解決するためには何を読み取っていけばよいかなど、初発の際に出た児童の疑問などから、毎時間の課題を設定する。その際、できる限り児童の言葉や疑問を生かすようにする。

○毎時間の課題の工夫による読む範囲や叙述の焦点化

物語全体を見渡してごんの気持ちや性格を読み取ってほしいが、中学年ではいきなり全文を読むのは難しく、表面的な読みになってしまう恐れがある。また、苦手な児童にとっては膨大な文章量は意欲を削がれてしまう。そこで、物語の全体を捉えられる全文シートを活用しながら、毎時間の課題によって、読む箇所を焦点化し、苦手な児童にも着目する叙述を見つけやすくなるよう、毎時間の課題を工夫する。もちろん、自分の考えや感想をもつ際は、場面を限定せず、全体の文章から理由や根拠を見つけて良いことを全体で確認する。多様な叙述から根拠を見つけた児童の意見を全体で取り上げれば、場面と場面のつながりに気付くこともできると考える。

【「ごんぎつね」における、言葉による見方・考え方を働かせたい叙述の例】

「ごんぎつね」では、児童の初発の感想と教師の投げかけをきっかけとして、次のような叙述から問いを立てる。その問いを解決するためには、「読みの観点（気を付けて読むこと）」を意識して読むことが不可欠であり、その過程で、児童は叙述を詳しく読んだり、学級で話し合ったりしながら、自身の「言葉による見方・考え方」を働かせることができる。

叙述	考えさせたいこと	読みの観点（気を付けて読むこと）
「おれがくりや松たけを持って行ってやるのに、そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃないあ、おれは引き合わないなあ。」	・「引き合わないなあ」と言うのに、なぜその明るる日もくりをもって兵十のうちにでかけたのか。 ・何のために兵十のうちに行くのか。	・場面の様子や出来事 ・登場人物の様子、行動、会話 ・登場人物の境遇、性格、気持ち ・情景描写
その明るる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。	・ごんは、最後どのような思いだったのか。	
ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。	・ごんの思いはどのように変化してきたのか。	

(2) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。（確かにする、広げる、高める、深める、などを含む）

「読むこと部」では、「他者と協働する」とは、「文章中の言葉を媒体として多様な考えに触れることで自分の考えを見直す」ことととらえている。児童同士の考えの交流だけでなく、作者・筆者・登場人物等との対話も含まれる。以下2つの手だてによって、他者との協働を充実させることで、文章中の言葉をより多面的にとらえたり問い直したりすることができると思った。

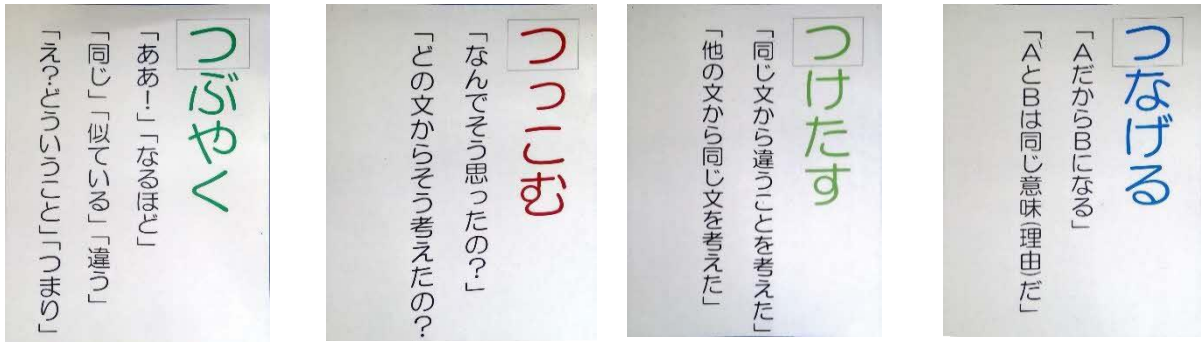
① 交流活動の工夫

○多様な考えに触れる交流にするための意図的なグループ編成

二次では、一人読みをして重要な語句や叙述を押さえた後、全体で交流する前に小グループで交流の時間を設ける。基本は、考えを深める交流として固定メンバーで行う。教師側で意図的に上位、中位、下位の児童が均等に配置されたグループを編成し、どのグループでも円滑に話し合いができるようにする。少人数での交流によって、一人では気付かなかった根拠に気付いたり、違う捉え方に触れたりといったことを重視し、様々な意見に触れ考えを広げた上でもう一度自分の考えを見つめ直すことで、毎時間の課題（問い）に対する最終的な考えを深める。

○話し合いの「四つの『つ』」の提示

「発表」から「共有」へ、引いては「交流」へとつなげていくためのポイントを提示し、常に意識させる。・つぶやく ・つっこむ ・つけ足す ・つなげる の「4つの『つ』」として掲示も行い、具体的に話型の例も示す。児童に提示するカードは以下のとおりである。



このような形で話し合いの流れやポイントを示すことで、交流を自分たちで充実させようという意識が芽生えたと考えた。まずは、誰かの意見に必ず何かコメントすることを意識させ、「つぶやく」「つっこむ」「つけ足す」はグループ交流で自発的にできるよう指導していく。事前に似た考えを見つけたり、違う意見に気付いたりしておくことで、全体交流がしやすくなるを考える。また、全体では自信がなくてもグループでなら話せるという児童も多い。一度グループ交流で人に話すことで思考も整理され、グループで生かされる意見を述べることができれば、自信をもって全体交流に臨むことができる。「つなげる」は難しいので、教師が全体交流で示しつつ、叙述や思考を「つなげていく」とはどういうことなのか、本単元で経験し実感して、今後の文学的な文章（物語文）の学習につなげてきたい。

② 発問の工夫

本単元では、ごんの気持ちの変化をより具体的に、深く考えさせていきたい。そのために、毎回の問い（主発問）の他に、ゆさぶり発問によって児童の思考を活性化し、多様な考えに気付かせるためのゆさぶり発問（補助発問）を意図的に投げかけていく。その際、「ごんの葛藤」「他の登場人物の気持ち」「異なる立場の友達の見解」など、より多面的に考えられるような発問にすることを意識する。

〈想定する発問例〉

時	主発問	ゆさぶり発問
4	ごんは、なぜいたずらをするのだろうか。	構ってほしくていたずらをするごんに対して、村の人々はどのように思っているだろうか。ちょっとしたいたずらなのだろうか。
5	ごんは、なぜつぐないを始め、くりかえしたのだろうか。	ごんは、なぜ今回だけいたずらを後悔しているのだろうか。兵十はどのような様子だろうか。5回のつぐないは、ごんにとってただの繰り返しか。
6	ごんが、兵十と加助についていくのはなぜだろうか。	ごんは兵十に気付いてほしいのか、気付かれたくないのか。
7	兵十と加助の会話を聞いたごんは、どんな気持ちだろうか。	引き合わないと思ったのに、ごんがつぐないを続けたのはなぜだろうか。
8	ぐったりとうなずくごんは、どのような気持ちだったのだろうか。	ごんは、うれしかっただろうか。最後の「青いけむり」の意味とは。
9	物語の中で兵十の気持ちは、どのようにかわっていったのか。	兵十は、どのような気持ちで「ごん、おまえだったのか」といったのだろうか。兵十は、この後どうしたのだろうか。

このように、ある程度個人の考えをもったところで、ゆさぶり発問を行うことで、共通の土台で交流した

り、ちがう視点に気付かせたりすることが、考えを広げ深めることにつながると考える。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

「読むこと部」では、「言語生活を豊かにする」とは、「説明的な文章や文学的な文章を読むよさや面白さに気付き、進んで読書をしたり、読書の幅を広げたりすること」ととらえている。以下2つの手だてによって、児童は「読みの観点」の活用場面を具体的に想定し、今後の言語生活に生かすことができる考えた。

① 振り返りの工夫

○毎時間のまとめ

毎時間、問いの手がかりとなるごんの気持ちの変化を捉えていくことが学習活動の中心となるため、児童は、ごんの気持ちに寄り添ったり、ごんの視点で考えたりしながら読み進めていくことが予想される。そこで、毎時間のまとめとして、一人読みや交流を経た上での問いに対する答えを再度まとめさせることで、客観的な立場から登場人物や物語を捉えることができるようにする。「ごんがつぐないを続けたのは、罪悪感からだと思っていたが、友達の見解を聞いて『気付いてほしい』という理由もあると感じた。根拠は…」 「初めの意見と変わらないが、根拠を多く見つけられた。」など、毎時間の気付きや思考の深まりをまとめていく。このような形で毎時間のまとめを行うことで、後述の単元のまとめとなる『『ごんぎつね』って、こんな物語』と、児童の考えや感想、意見につなげやすくなると思う。

○単元のまとめ

それまでの2次での読み取りや、「ごんは最後どのような思いだったのか」という中心発問に対する自身の考えを総括し、「ごんぎつねって、こんな物語」という物語全体に対する考えや感想を根拠と共にまとめることを単元全体のまとめとする。初発の考えと並べて、単元のまとめを比べられるような形式を工夫し、自身の変容や考えの深まりが味わえるようにする。表面的な「ごんがかわいそう」「兵十はひどい」などといった感想から、ごんの葛藤や複雑な気持ち、兵十への思い、結末についての捉え方など、多面的に物語を捉えた上での考えや感想をまとめるように指導を行う。

② 読書活動につなげる工夫

○読んだ感想を話し合う意義や楽しさを味わえる交流

毎時間、前述のような問いの形の課題やゆさぶり発問によって皆で同じ疑問について話し合ったり、意図的グループで交流したりする時間を設定することは、同じ物語を読んでも多様な感想が生まれることや、それを交流することで自分の考えが広がる楽しさを味わえることにつながる。単元全体を通して、人と関わることで今後の読書活動が豊かなものになることに気付かせることができると思う。

6 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
第一次 構造と内容の把握	1	1 既習の文学的教材をふり返る。  2 全文を読む。  3 初発の感想を書く。 ○気になる言葉、登場人物、好きな場面など ○どんな話か、そう思った理由 「～が～して～した話。」 ○読んでどう思ったか	○これまでの学んだ物語についての読み方を想起させる。  ○全文シートを用いる。  ○次時で読みの課題が出やすくなるように、感想に視点を設ける。	◆知識技能① 文章から気付いた言葉により、様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしているかの確認 ★ノート
	2	1 ごんぎつねの感想を交流し、単元を通して考えたいテーマ（中心発問）を設定する。  2 中心発問や初発の感想、疑問から学習計画を立てる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                         最後にぐったりとうなずくごんは、どのような気持ちだったのだろうか。場面や登場人物の気持ちの変化に気を付けて読もう。                     </div>	○テーマは児童の言葉を活用して設定する。  ○毎時間の読みの観点となるよう児童の言葉を活用して学習計画を立てる。	
	3	1 出来事を整理し、物語の大まかなあらすじを捉える。 一→兵十にいたずらをするごん 二→そうしきを見て、こうかいするごん 三→つぐないを続けるごん 四→兵十と加助の会話を聞くごん 五→ひきあわないなあと思うごん 六→兵十にうたれてたおれるごん  2 登場人物についてまとめる。 ごん ・ひとりぼっちの小ぎつね ・森の中に穴をほって住んでいる。 ・夜でも昼でも、辺りの村へ出てきて、いたずらばかり。(畑へ入っていもをほり散らしたり、菜種がらのほしてあるのへ火をつけたり、ひやくしょう家のうら手につるしてあるとんがらしをおしり取っていったり) ・いたずらがしたくなる  兵十 ・ぼろぼろの黒い着物を着ている。 ・ごうかいな性格→ぶちこみました ・ごんに対してとても怒っている。→どなりたてました。	○行動や気持ちを手掛かりに、場面ごとに「○○なごん」と要約し、大まかなあらすじを捉えられるようにする。  ○登場人物の相互の関係が分かるように整理する。  ○ごんと兵十はそれぞれどんな人物か、1場面の叙述を手掛かりにまとめられるようにする。	

<p>4</p>	<p>1 課題を確認し学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ごんはなぜいたずらをするのか。</p> </div> <p>2 読みの課題に関わる部分を読む。</p> <p>3 本文の叙述を根拠に、課題に対する自分なりの考えをまとめる。</p> <p>4 3、4人程度のグループをつくり、読みの課題について話し合う。          ・村の人と仲良くしたいから。          →山の中の穴にひとりぼっち          ・さみしいから。          →ごんは外へも出られなくて、穴の中にしゃがんでいました。          ・いたずらが好き。          →ちょっと、いたずらがしたくなかったです。</p> <p>5 個人の考えや、話し合ったことを共有する。  <b>【揺さぶり発問】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>構ってほしくていたずらをするごんに対して、村の人々はどう思っているのだろうか。ちょっとしたいたずらなのだろうか。</p> </div> <p>・とても怒っている。          ・人の生活をおびやかす行動の数々、許せない。          →ぬすつとぎつねめ、<u>どなりたてました</u>（強い怒り）          →とんがらしを<u>むしり</u>取っている。（窃盗、強奪）          →畑のいもをほり<u>散らす</u>、<u>火をつける</u>（器物破損、放火）          →兵十のさかなやうなぎも、<u>下手の川の中を目がけて</u>、ぼんぼん投げこんでいる。（悪意）</p> <p>6 学習の振り返りを行う。</p>	<p>○兵十とごんの会話や、行動を中心にサイドラインを引かせ、気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けて想像させる。</p> <p>○考えと根拠となる叙述を示しながら話し合うことを確認する。</p> <p>○互いのまとめから、何が分かるか、共通点や相違点にも着目できるように、交流の視点を明確にしておく。（つぶやく、っこむ、つけたす、つなげる）</p> <p>○登場人物の会話や行動を基に、登場人物の気持ちの変化を捉えている児童を指名する。</p> <p>○児童の思考を広げるために補助発問する。他の登場人物の気持ち、村人にとってのいたずらの意味などを考えられるようにする。</p> <p>○読みの課題について、再考できるようにする。考えの変容、友達の意見への気付き、質の変化など。</p>	<p>◆思考・判断・表現①          ごんの様子や気持ち、兵十と加助の様子におけるごんの気持ちの変化について場面の移り変わりと結びつけて様子を想像しているかの確認</p> <p>★ノート・観察</p>
----------	--	--	--

5	<p>1 課題を確認し学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">       ごんはなぜつぐないを始め、繰り返したのか。     </div> <p>2 読みの課題に関わる部分を読む。</p> <p>3 本文の叙述を根拠に、課題に対する自分なりの考えをまとめる。</p> <p>4 3、4人程度のグループをつくり、読みの課題について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うなぎを取ったことを後かいしているから。</li> <li>・自分のせいで、どこにいた兵十のおっかあがうなぎを食べられなかったから。</li> <li>→あんないたずらをしなけりゃよかった。</li> <li>・自分とにていると思ったから。</li> <li>→「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」</li> <li>・仲良くしたいから。</li> <li>→ひとりぼっちの小ぎつね</li> </ul> <p>5 個人の考えや、話し合ったことを共有する。</p> <p>【揺さぶり発問】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">       ごんは、なぜ今回だけいたずらを後かいしているのか。        兵十はどんな様子だろうか。        5回のつぐないは、ごんにとってただのくり返しか。     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族をなくしてひとりぼっちになった兵十がかわいそうだと思ったから。</li> <li>→いつもは、<u>赤いさつまいもみたいな顔</u>が、今日は<u>なんだかしおれていました</u>。(比喩)</li> <li>・何度もいたずらをした分、許してもらうまで毎日つぐない続けようと思ったから。</li> <li>→<u>まず</u>一つ、いいことをしたと思いました。(順序性・連続性)</li> <li>→これはしまった。(後悔・罪悪感)</li> </ul> <p>6 学習の振り返りを行う。</p>	<p>○どこから「つぐない」と分かるのか、サイドラインを引かせ、叙述に沿った読みが進むように言葉に着目しながら進める。</p> <p>○考えと根拠となる叙述を示しながら話し合うことを確認する。</p> <p>○互いのまとめから、何が分かるか、共通点や相違点にも着目できるよう、交流の視点を明確にしておく。(つぶやく、つっこむ、つけたす、つなげる)</p> <p>○登場人物の会話や行動を基に、登場人物の気持ちの変化を捉えている児童を指名する。</p> <p>○児童の思考を広げるために補助発問する。</p> <p>○読みの課題について、再考できるようにする。考えの変容、友達の意見への気付き、質の変化など。</p>
---	---	---



6	<p>1 課題を確認し学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ごんが兵十と加助についていくのはなぜだろうか。</p> </div> <p>2 読みの課題に関わる部分を読む。</p> <p>3 本文の叙述を根拠に、課題に対する自分なりの考えをまとめる。</p> <p>4 3、4人程度のグループをつくり、読みの課題について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2人が自分のつぐないの話をしているから。</li> <li>→とても、不思議なことがあるんだ。</li> <li>・自分がつぐないをしていたと兵十に気付いてほしいから。</li> <li>→おれの知らんうちに置いていくんだ。</li> <li>→兵十のかけぼうしをふみふみ行きました。</li> </ul> <p>5 個人の考えや、話し合ったことを共有する。</p> <p>【揺さぶり発問】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ごんは兵十に気付いてほしいのか、気付かれないのか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだぬすっどぎつねだと思われているから。</li> <li>→いたずらばかりしました。</li> <li>・これまでの行動を、村人に許されていないから。</li> <li>→いったい、だれがいわしなんかを。</li> <li>→びくっとして、小さくなって立ち止まって。</li> </ul> <p>6 学習の振り返りを行う。</p>	<p>○サイドラインを引かせ、ごんと兵十との気持ちの距離と実際の距離がわかる言葉にも着目して読みを進める。</p> <p>○考えと根拠となる叙述を示しながら話し合うことを確認する。</p> <p>○互いのまとめから、何が分かるか、共通点や相違点にも着目できるよう、交流の視点を明確にしておく。(つぶやく、つつこむ、つけたす、つなげる)</p> <p>○登場人物の会話や行動を基に、登場人物の気持ちの変化を捉えている児童を指名する。</p> <p>○児童の思考を広げるために補助発問する。</p> <p>○読みの課題について、再考できるようにする。考えの変容、友達の意見への気付き、質の変化など。</p>
---	--	---

1	課題を確認し学習の見通しをもつ。
	兵十と加助の会話を聞いたごんは、どんな気持ちだろうか。
2	読みの課題に関わる部分を読む。
3	本文の叙述を根拠に、課題に対する自分なりの考えをまとめる。
4	3、4人程度のグループをつくり、読みの課題について話し合う。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おねんぶつが終わるまで待つくらい、2人の会話が気になったんだと思う。</li> <li>・自分の話題が出て、嬉しかった。</li> <li>・「神様のしわざ」と言われて悔しかったんじゃないかな。</li> <li>・「引き合わないな」と思っているから、自分に感謝してほしい気持ちがあったと思う。</li> </ul>
5	個人の考えや、話し合ったことを共有する。
	【揺さぶり発問】
	ひきあわないと思ったのに、ごんがつぐないを続けたのはなぜだろうか。
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良くなりたい。気付いてほしい。許してほしい。(ごん自身の気持ち)</li> <li>→うちのうら口から、こっそり中へ入りました。⇒兵十への距離が近づいている。気持ちも近づいている。</li> <li>→そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃないか、⇒お礼を言ってほしい、自分のつぐないを分かってほしい。</li> <li>・反省している。(後悔・反省)</li> <li>→その明るく日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。⇒がっかりしてもつぐないを続けているのは、深く反省しているから。</li> <li>・助けたい。よろこばせたい。(兵十への気持ち)</li> <li>→兵十は今まで、おっかあと二人きりで、まずしいらしをしていたもので、おっかあが死んでしまったのは、もうひとりぼっちでした。⇒まずしく、さびしい思いをする兵十の力になりたい一心で続けたのではないか。</li> </ul>
6	学習の振り返りを行う。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○サイドラインを引かせ、気持ちと行動がつながる叙述にも気付けるようにする。</li> <li>○考えと根拠となる叙述を示しながら話し合うことを確認する。</li> <li>○互いのまとめから、何が分かるか、共通点や相違点にも着目できるよう、交流の視点を明確にしておく。(つぶやく、つっこむ、つけたす、つなげる)</li> <li>○登場人物の会話や行動を基に、登場人物の気持ちの変化を捉えている児童を指名する。</li> <li>○児童の思考を広げるために補助発問する。</li> <li>○「引き合わないな」と思ってから、明るく日に出かけるまでの、ごんの気持ちの揺れに気づき、次時につながるようにする。</li> <li>○読みの課題について、再考できるようにする。考えの変容、友達の意見への気づき、質の変化など。</li> </ul>

8 (本時)	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時の学習課題を知る。</p>	<p>○行動や会話を基に、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を捉えたことを確認する。</p>
	<p>ぐったりとうなずくごんは、どのような気持ちだったのだろう</p>	
	<p>3 読みの課題に関わる部分を読む。</p> <p>4 本文の叙述を根拠に、課題に対する自分なりの考えをまとめる。</p> <p>5 3、4人程度のグループをつくり、読みの課題について話し合う。</p> <p>・あれだけ兵十のためにつぐなったのに、どうして。</p> <p>・死ぬのはいやだ。</p> <p>⇒ひきあわないと思っても兵十のためにつぐないを続けたが、うたれてしまうことに対する不満</p> <p>・さみしいから仲良くなりたかった。</p> <p>⇒遠くから見ているだけだったごんが、最後は兵十のうちへ入っている。自分と同じひとりぼっちの兵十と仲良くなりたかった。</p> <p>⇒いたずらも、つぐないも、ごんのさみしさからきている。</p> <p>・つぐないの気持ちが伝わったかな。</p> <p>⇒兵十のごんへの気持ちが最初の場面と比べて変わっている。ごんの行動に気付いている。</p> <p>6 個人の考えや、話し合ったことを共有する。</p> <p>【揺さぶり発問】</p>	<p>○最後のごんの思いを読む際には、これまでの文章全体の、複数の叙述の言葉に着目してきたことを確かめて、自分の考えにも生かせるように促す。</p> <p>○互いのまとめから、何が分かるか、共通点や相違点にも着目できるよう、交流の視点を明確にしておく。(つぶやく、つっこむ、つけたす、つなげる)</p> <p>○児童の思考を広げるために補助発問する。</p>
	<p>ごんは、うれしかっただろうか。最後の「青いけむり」の意味とは。</p>	
<p>・悲しい</p> <p>⇒仲良くなりたかった兵十に殺されてしまったから。</p> <p>・嬉しい</p> <p>⇒ごんの思いは兵十に届いたから。</p> <p>・青いけむり</p> <p>⇒ごんや兵十の悲しい気持ちが込められている。けむりは白いはずなのに、青と表されているから特別な意味がある。(情景描写)</p> <p>7 学習の振り返りを行う。</p>	<p>○読みの課題について、再考できるようにする。考えの変容、友達の意見への気付き、質の変化など。</p> <p>○第6場面だけ兵十の視点になっていることに気付かせ、次時につなげる。</p>	

◆思考・判断・表現②  
 ごんの気持ちの変容を場面の移り変わりと結びつけて想像して読んだことをもとに、これまでの学習経験を生かして自分の考えを文章にしているかの確認

★ノート・観察

	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兵十は、ずっとごんのことを「ぬすつとぎつね」と思っていた。</li> <li>・ごんは軽い気持ちでいたずらしていたけれど、村人たちにとっては許せない存在。</li> <li>・お母さんが死んでからは、兵十はごんをもっと憎んでいたかもしれない。</li> <li>・加助との話から、つぐないがごんだとは思ってもみなかったことが分かる。</li> </ul> <p>2 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>兵十は、どのような気持ちで「ごん、おまえだったのか」と言ったのだろうか。</p> </div> <p>3 本文の叙述やこれまでの学習から根拠を見つけ、課題に対する自分なりの考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぬすつとぎつね」と思っていたから、最後まで「あのごんぎつねめ」と思って撃ったけれど、つぐないを知って気持ちが変わった。</li> <li>・「火縄じゅうをばたりと取り落としました」とあるから、兵十は後悔していると思う。</li> </ul> <p>9 4 3、4人程度のグループをつくり、読みの課題について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くりや松たけをくれたのがごんだと気付いて、「ごんは悪いぎつねじゃなかった」と感じたと思う。</li> <li>・気付いた後「ごん」と呼びかけたことから、ごんへの見方が変わったことが分かる。</li> <li>・「ごん」と呼びかけは、気持ちが近づいた感じもするね。</li> <li>・最後の「青いけむり」は兵十の悲しみでもあるんじゃないかな。</li> </ul> <p>6 個人の考えや話し合ったことを共有する。</p> <p>【揺さぶり発問】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>兵十は、この後どうしたのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんのことを許そうと思ったんじゃないか。</li> <li>・一番初めの文から、この話は村の人に語り継がれていることが分かる。</li> <li>・兵十が村の人に伝えたんだと思うと、兵十のごんへの気持ちが変わったと分かるね。</li> </ul> <p>7 学習の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでまとめてきたごんの気持ちの変化と比べながら、六場面まで兵十の気持ちがほとんど変わっていないことを捉えられるようにする。</li> <li>○考えと根拠となる叙述を示しながら話し合うことを確認する。</li> </ul> <p>○互いのまとめから、何が分かるか、共通点や相違点にも着目できるように、交流の視点を明確にしておく。(つぶやく、つっこむ、つけたす、つなげる)</p> <p>○第6場面が兵十の視点から語られていることに着目し、それまでの場面と比較して兵十の行動や会話の変化を捉えられるようにする。</p> <p>○最後の兵十の気持ちや結末後について考えることを通して、冒頭の「村の茂平というおじいさんから聞いた」というこの物語の仕掛けに気付き、それが兵十の気持ちの変化の根拠となることに気付けるようにする。</p> <p>○読みの課題について、再考できるようにする。考えの変容、友達の意見への気付き、質の変化など。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第三次共有</p>	<p>10</p> <p>1 『ごんぎつね』はどんな話か。をまとめる。</p> <p>2 交流しもう一度考えをまとめる。</p> <p>3 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最初との違いを感じ取るために、最初の読みを端的にまとめた自分のノートを参考にしながら考えをまとめる。</li> <li>○この単元で学んだ読み方を振り返り、今後の読書生活にも生かせるようにする。</li> </ul>	<p>◆主体的に学習に取り組む態度① 進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、ごんの最後の思いを文章にまとめようとしている。 ★ノート・観察</p>

## 7 本時の学習

(1) 本時のねらい

ぐったりと目をつぶったままうなずいているごんの思いを、叙述を基に想像する。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時の学習課題を知る。</p>	<p>○行動や会話を基に、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を捉えたことを確認する。</p>	
<p>ぐったりとうなずくごんは、どのような気持ちだったのだろうか</p>		
<p>3 読みの課題に関わる部分を読む。</p> <p>4 本文の叙述を根拠に、課題に対する自分なりの考えをまとめる。</p> <p>5 3、4人程度のグループをつくり、読みの課題について話し合う。</p> <p>・兵十に許してほしくてつぐないを続けたけど、撃たれて悲しいな。死ぬのはいやだな。 ⇒ひきあわないと思っても兵十のためにつぐないを続けたが、うたれてしまうことに対する悲しみ</p> <p>・兵十ごめんよ。おれはうたれても仕方ないことをした。 ⇒いたずらへの後悔や反省。</p> <p>・さみしいひとりぼっち同士、仲良くなりたかったな。 ⇒遠くから見ていただけだったごんが、最後は兵十のうちへ入っている。 ⇒いたずらも、つぐないも、ごんのさみしさからきている。</p> <p>・つぐないの気持ちに気付いてもらえてよかった。 ⇒兵十のごんへの気持ちが最初の場面と比べて変わっている。ごんの行動に気付いている。</p>	<p>○最後のごんの思いを読む際には、これまでの文章全体の、複数の叙述の言葉に着目してきたことを確かめて、自分の考えにも生かせるように促す。</p> <p>○互いのまとめから、何が分かるか、共通点や相違点にも着目できるよう、交流の視点を明確にしておく。(つぶやく、つっこむ、つけたす、つなげる)</p>	<p>◆思考・判断・表現② ごんの気持ちの変容を場面の移り変わりと結びつけて想像して読んだことを基に、ごんの最後の思いについて、これまでの学習経験を生かして自分の考えを文章にしているかの確認</p> <p>★ノート・観察</p>
<p>6 個人の考えや、話し合ったことを共有する。</p> <p>【揺さぶり発問】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ごんは、最後うれしかったのだろうか。 (最後の「青いけむり」にはどのような意味が込められているのだろうか。)</p> </div> <p>・うたれてしまったのは悲しい。</p> <p>・ごんの思いは兵十に届いたからうれしかったと思う。</p> <p>・自分は悪だけのきつねじゃないと分かってもらえて満足な気持ちもあったと思う。</p> <p>・「青いけむり」には、ごんの悲しい気持ちが込められていると思う。けむりは白いはずなのに、青と表されているから特別な意味がある。(情景描写)</p>	<p>○児童の思考を広げるために補助発問する。</p> <p>○読みの課題について、再考できるようにする。考えの変容、友達の見解への気づき、質の変化など。</p> <p>○第6場面だけ兵十の視点になっていることに気づかせ、次時につなげる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○おおむね満足できる児童への本時以降の手立て</p> <p>気持ちの変化とその理由を考えたり、ごんと兵十の双方の視点から物語を捉え直したり、物語の仕掛けに気づいたりしたことを踏まえ、「ごんぎつね」についての終末の感想を初発との変容を明らかにしてまとめるよう促す。</p> <p>○おおむね満足できる状況を目指す本時以降の手立て</p> <p>第6場面が兵十の視点から描かれていることに気づかせ、これまでのごんの気持ちと比べて、物語を捉えられるよう声かけする。</p> </div>
<p>7 学習の振り返りを行い、次時への予告をする。</p>		

〜解き明かそう!ごんの最後の思いとは〜

ごんぎつね

☆ふたたび、つぐないをしにきたごん

「引き合わないな」

明くる日も...

・気付いてほしい  
・気付かれなくてもつぐないたい  
・兵十と仲良くなりたい  
・兵十を助きたい

ぐったりとつぐなくごんは、どのような気持ちだったのだろうか。

根きよ

・ぐったりしたまま  
うなずきました。  
・今まで外だったのに  
土間まで入った。  
・ひとりぼっちの小ぎ  
つね  
・「おれと同じひとりぼ  
っちの兵十」  
・引き合わないのに、ま  
たつぐないに来た。  
・おっかあを死なせた。

〈ごんの思い〉

つぐないが自分だと知っても  
らえて嬉しい。  
気付いてほしい。  
一人でさみしかったから、仲  
良くなりたかったなあ。  
同じ状況よりの兵十となら、  
仲良くなれたかもしれないの  
に、死ぬのは悲しいな。  
もつとつぐないを続けたかっ  
た。  
うたれても仕方ない。兵十ご  
めんよ。

挿絵  
ぐったりするごん

ごんは最後うれしかった?

・仲良くなりたかったけれど、兵十にうたれて悲しい。  
・ごんの思いは兵十に届いたから、満足したと思う。  
・青いけむりは、ごんの悲しみを表す↓兵十も?  
・悲しいけれど、うれしさもあるふくぎつな気持ち